



Brassai

ブラッサイ — ポンピドゥーセンター・コレクション展

2005年8月6日(土)～9月25日(日)

東京都写真美術館2F展示室(恵比寿ガーデンプレイス内)
10:00AM～8:00PM (木・金曜日は8:00PM/入館は閉館の30分前まで)
毎週月曜日休館(但し9/19(月・祝)は開館。翌9/20(火)は休館。

Exposition conçue et organisée par le Centre Pompidou,
Musée national d'art moderne-Centre de Création Industrielle, Paris.



■観覧料：一般 1000(800)円/学生 900(720)円/65歳以上・中高生 800(640)円
*()内は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会
*小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者1名は無料

■主催：東京都写真美術館・朝日新聞社 ■後援：フランス大使館
■協賛：エールフランス航空 AIR FRANCE ■協力：ポンピドゥーセンター・岩波書店・PPS通信社



1930年代・パリ、夜更けの狂騒。 ブラッサイのやさしい眼差しが見つめていた…



自写像 1930-32年頃 ©ESTATE BRASSAI-R.M.N.

東京都写真美術館は今年総合開館10周年の節目を迎え、これまでの集大成ともいえる高質な、また大規模な展覧会の数々を「開館10周年特別企画展」という名のもとに通年で開催しております。本展は、パリ観光の名所としてのみならず国際的な近代・現代美術の秀逸なコレクションで知られている国立ジョルジュ・ポンピドゥー芸術文化センター(通称ポンピドゥーセンター)の全面的な協力のもとに、写真・素描・彫塑を含む世界有数のブラッサイ作品を、より多くの方々に鑑賞していただける唯一の日本巡回展として開催するはこびとなりしました。

ブラッサイことジュラ・ハラースは、1899年現ルーマニア領トランシルヴァニア地方のブラッショー(後に転じて「ブラッサイ」=ブラッショーの人と名乗る)に生まれ、画家を志してハンガリーとドイツに学び、1924年ジャーナリストとしてパリへと渡ります。アンドレ・ケルテスの手ほどきで写真を始め、夜が更けてから静まりかえった街やカフェ、バーなどを巡り、猥雑でありながら人情味あふれる1930年代初頭のパリの人間模様を描き出した彼は、32年に発表した写真集「パリの夜」(序文:ポール・モーラン)で一躍脚光を浴びました。また、ピカソ、ジャコモッティらのアーティストやサルトル、ヘンリー・ミラーといった文化人らとも親交を結び、ポートレート作品も数多く残されています。

本展は、総合的なアーティストとしてブラッサイの世界を探るべく、2000年にポンピドゥーセンターで開催された展覧会の巡回展として、代表作「夜のパリ」をはじめ、実験的な「ミノートル」誌での仕事やハーバース・バザー誌で発表された「昼のパリ」、また1930年代から構想を温め続けた「落書き」等の写真作品に加え、貴重な素描と彫塑作品もあわせた未発表作品を含む全234点(予定)で再構成して展開します。

関連イベントのお知らせ

カフェ+ギャラリートーク 「ブラッサイとパリ」

日時：2005年8月6日(土) 4:30PM-7:00PM
2Fカフェ+展示室
料金：2000円(飲物代・展覧会入場料込、通訳付)
講師：ポンピドゥーセンター・本展コミッショナー
アラン・サヤグ氏
東京大学大学院・助教授
今橋映子氏
詳細および応募方法：workshop@syabi.com まで

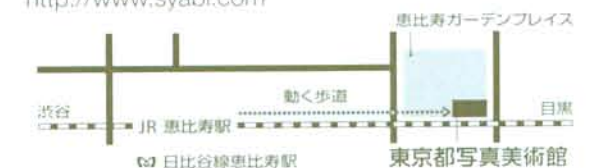
●表面作品

- A カフェの恋人たち、イタリー広場 1932年頃
- B 霧の中のネー元帥像 1932年
- C 落書き 1935-1950年頃
- D お守りII 1971年
- E バー<ドゥ・ラ・リュヌ>の「宝石の女」 1932年
- F 腰掛ける女 1933年
- G ピカソ 1947年
- H 落書き 1935-1950年頃

※Hはすべて国立ジョルジュ・ポンピドゥー芸術文化センター(国立近代美術館)蔵
※Cはポンピドゥーセンター蔵
©ESTATE BRASSAI-R.M.N.

東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3
恵比寿ガーデンプレイス・JR 恵比寿駅東口7分
TEL 03(3280)0099
http://www.syabi.com



*当館には駐車場がございません。お車での来館はご注意ください。